

高齢者の生活支援について

平間 知一



必要があると考えるが、所見を伺う。

〔質問〕超高齢化社会を迎えようとしている中、75歳を超えると介護の必要度は急激に上昇する。また、要介護認定を受けている方は、6割以上の方が「自宅で介護してもらいたい」と自宅での暮らしを望んでいる。

今後は、家庭ごみの搬出の協力、日用品の買い物の手助け、冬季の通路の除雪・融雪などについて、ひとり暮らしの高齢者、老老介護世代、80歳以上の高齢者世帯、体の不自由な高齢者がおられる世帯などをリストアップし、高齢者の生活を市民が支え合う仕組みをつくる

〔答弁〕【長寿課長】本市は、地域における高齢者の生活を市民が支え合う仕組みづくりに力を入れており、高齢者等地域ささえ愛互助活動支援事業を実施している。

これは、市が社会福祉協議会へ事業を委託しているもので、主に要支援以上の高齢者に家事支援のサービスを行っている。

高齢者情報のリストアップについては、個人情報取り扱いが難しい面もあるが、これらの事業において、人と人がかかりを持つ中で、新たに支援を必要とされる方々の情報を得て、地域で声掛けができる体制をつくっていただけ

ばと考えている。

〔質問〕特別養護老人ホームなど社会福祉施設と地域社会の相互の交流を深めることで、孤独な高齢者を一人でも減らしていくことができるとは思いますが、所見を伺う。

〔答弁〕【長寿課長】現在、各地域で展開されているサロンは、高齢者同士が楽しく活動されることで、生き生きとした生活を送られている。

このことから、孤独な生活を送られている方が、地域のサロンに参加いただくことは、元気で楽しく生活するための一助になると思われる。

その上で、サロンと社会福祉施設が自発的にかかりを持つければ、地域社会の相互交流が深まっていくことになると考えている。

【その他の質問】

◎認知症患者への対応について

◎健康推進について

子どもの安心・安全について

菊地 忠久



者と普段から関わりがなければ、いざという時に機能しない。

〔質問〕「子ども110番の家」について、制度が形骸化していないか。

〔答弁〕【教育長】本市は全ての小学校で取り組んでおり、総登録件数は759件である。

大鷹沢小学校では全ての家庭が登録し、地域全体で見守るという取り組みをしている。

いざというときに有効に機能するよう指導している学校がある一方、年1回のお祭りだけになっている学校もあることから、参考事例を各学校に示し、制度が形骸化しないよう指導していきたい。

〔質問〕子どもたちが「子ども110番の家」の存在を認識し、その関係

いての実情に合った形で今後、活用していきたい。

〔質問〕「情報モラル教育」について、子どもたちのインターネットとの関わりと有害情報等の認識を伺う。

〔答弁〕【教育長】インターネットは非常に便利なツールであるが、使い方を間違えると凶器にもなる。有害情報も氾濫しており、容易にアクセスできる環境にあると認識している。

〔質問〕情報モラル教育の状況について伺う。

市内には2名の安全主幹教諭が加配措置されているが、「子ども110番の家」事業も安全主幹教諭の主たる仕事のひとつと認識している。

〔質問〕安全主幹教諭の現在の活動状況について伺う。

〔答弁〕【教育長】防災訓練の際、各地区に出向いて話し合いに参加している報告は受けている。制度が始まって間もないことやモデル案もないことから、本市において

◎施政方針について

◎第六次白石市総合計画策定について